

突如として出てきた

反ファシズム統一戦線なるもの

反動性・パテン性を暴く!

その1

日刊 動労千葉

80.9.18

No. 536

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)三五八・九・(公衆)四五三(22)七二〇七

動労千葉つぶしを狙った

反動的セクト路線の全面開花!

「本部」反動分子は、今日、「動労第三六回大会は、反ファシズム統一戦線づくりの偉大な方針を確立した。この新「路線」でつき進もう」と、大宣伝をくりひろげています。しかし、全国の職場の仲間がすでに感じているように、この新「路線」なるものが、第一に、「本部」反動分子のこれまでの路線の破綻と孤立化をごまかそうとするものであり、第二に、「水本」運動と同じく極めて反動的なセクト的デマ運動そのものであり、第三に、この大義名分のもとで彼らが現実に行うとしていた事は、動労千葉と三里塚・ジェット闘争を叩きつぶすための体制づくり、———そのためには、どんな破廉恥な方針でも、どんなものとの野合をも平気でやるという卑劣な本性を示す以外のなにものでもありません。以下「一問一答」形式でその本質と狙いをあばき出していきたいと思います。

問一 なぜ突然、こういう路線が出されてきたのですか?

答一 今までの「本部」反動分子の三里塚敵対・動労千葉をはじめ闘う部分への「排除の論理」と行動「路線のゆきづまり」と孤立化の結果です。

問二 「反ファシズム……」という新「路線」は全国大会方針書やスローガンの中には、全く位置付けられないまま「大会後」に突然もち込まれているように思いますが、どうなっているのですか?

答二 大会後突然ということですが、正確には、革マル派の機関紙が全国大会直前になって、突然「反ファシズム統一戦線」を全面化しましたが、その論旨は本年七月二〇日と二五日に、二名のメンバーが襲撃を受けた↓これは今までの謀略とはちがって「鄧小平の支持をも受けた田中清玄が中核派や解放派や中共派やブント諸派、さらに旧安保ブント転向分子やヤクザ・右翼から暴走族・竹の子族などまでもひとまとめにして組織化したもの」で、これが「日本型ネオ・ファシズム運動」として、革マル派に襲いかかっている。↓従って今やこれに対決する広汎な戦線をつくる必要があり、これが「反ファシズム統一戦線」であるVと言っています。この革マル派の主張に、「大会で確認した方針と合致している」という理由をこじつけて、動労が「運動として参加してゆく」と

いうことです。

問三 結局彼らは、何の目的で、誰と闘うといっているのですか?

答三 結局、「水本」と同じように、革マル派以外の全党派やその関係している運動を全て粉碎の対象として位置づけているという事です。具体的には、「スパイの運動、反人民的」ときめつけている三里塚の闘いや、「反社会的ゴロツキ集団」ときめつけた動労千葉の組織や闘いを粉碎の対象としたという事です。

問四 それでは「水本」運動をもちこんできた過程や目的とよく似ていますね。

答四 そうです。その本質や動労にもちこむやり方などそっくり同じといっているでしょう。大会方針にもない事を「単なる賛助団体」としてもち込み、動労の基本路線にまでまっすり上げ、動労のセクト的私物化を促進した事と同じです。ただ、現在では、「水本」にくら「人権擁護」だというべールをかぶせても文化人や組合員からも信用もされない位に破産してしまっているのです、別のべールを必要としているのです。

しかし、これはいかに「左翼的・戦闘的」に見せようとしても、裏切者・土屋粹を使って「三里塚・ジェット決議」を出させるようなパテンでしかないのです。
(以下つづく)